

## 再 評 価 書

事業名	鳥羽港港湾改修事業		事業区分	港湾事業	室 名	港湾・海岸室
事業概要	工 期 (下段：前回)	H6年～H21年	全体事業費 (下段：前回)	12,671百万円 (負担率：国40%：県45%市15%) (内20百万円は鳥羽市事業)		
		H6年～H20年		10,600百万円 (負担率：国40%：県45%市15%) (内20百万円は鳥羽市事業)		

### 事 業 目 的 及 び 内 容

鳥羽港は伊勢湾の入り口である伊良湖水道の西側に位置し、海峽や離島にわたる人流の基地として、鳥羽海上保安部や耐震強化岸壁を有する海上防災の拠点として、国際文化観光都市に指定されている鳥羽市の海の観光の玄関口として機能しています。鳥羽港は大きく佐田浜地区と中之郷地区に分かれ、鳥羽市営離島定期船や大型・小型観光船が、近鉄・JR鳥羽駅前という好立地である鳥羽港佐田浜地区に就航しています。現在の佐田浜地区は、離発着と係船が同一泊地内で行われており、水深も浅い部分があることから、入出港について効率化が図れていない状況です。また施設の老朽化も進んでいることから、新しい施設の整備により、安全で利用しやすい泊地を整備するとともに、旅客施設の利便性と快適性の向上を図り、鳥羽市の海の玄関口にふさわしい港の整備を進めるものです。

### 事 業 主 体 の 再 評 価 結 果

#### 1 再評価を行った理由

平成15年の再評価実施後、一定期間が経過したことから、三重県公共事業再評価実施要綱第2条に基づき、再評価を行いました。

#### 2 事業の進捗状況と今後の見込み

##### 2-1 事業の進捗状況

全体計画は、防波堤(310m)、浮棧橋(7基)、臨港道路(200m)、港湾緑地(7,317㎡)、鳥羽市旅客ターミナル(1棟)です。

このうち、緑地および、防波堤210mについては施工済みです。防波堤100m、浮棧橋7基の内5基は現在施工中となります。

残事業として、平成21年度に、浮棧橋(2基)、臨港道路(200m)、鳥羽市旅客ターミナル(1棟)の工事を行い、事業完了となります。

施設名	全体計画		整備済事業		残事業	
	数量	事業費	進捗状況	事業費	残事業量	事業費
県港湾事業	1式	(10,400,150) 12,471,450	70% 88%	(7,282,150) 10,921,450	30% 12%	(3,118,000) 1,550,000
鳥羽市事業 (ターミナル)	1棟	(200,000) 200,000	0棟 0棟	(0) 0	1棟 1棟	(200,000) 200,000
合計		(10,600,150) 12,671,450		(7,482,150) 10,921,450	29% 14%	(3,118,000) 1,750,000

上段( )：前回再評価時点(H15)

下段：今回再評価時点(H20)

##### 2-2 今後の見込み

厳しい財政状況の中ですが、鳥羽市が計画している新しい旅客ターミナルについては、平成22年度に開業を予定していることから、新港についても整備を急ぎ、平成21年度に事業を完了いたします。

#### 3 事業を巡る社会経済状況等の変化

鳥羽市は、古くからの港町であり、かつては多くの観光施設を有する観光都市として賑わいを見せていましたが、近年は不況の影響を受け観光客の入込みも減少が続いていました。しかしながら、ここ数年は国内旅行の人気と相まって、平成18年から再び増加に転じています。また、日本全体の海外からの観光客数が増えていることもあり、海外からの観光客も多く見られるようになって来ました。当事業が観光による鳥羽市再生の核となると考えています。

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

4-1 費用対効果分析

港湾名	便益 (B)	費用 (C)	B/C	備考
鳥羽港	195.1 億円	164.9 億円	1.18	

平成 15 年度 B/C=1.06 (B=124 億円、C=117 億円)

前回の再評価時から工事費が増えていること、年月がたっていること等から社会的割引率がかかり費用が増えています。便益についても精査した結果、B/Cは0.12上がった結果となっています。

4-2 地元意向

鳥羽市は平成 22 年度に、現在使用している鳥羽港港湾センターの機能を、新ターミナルに移行することとしており、当事業の完了を要望されています。旧港も休憩用係留施設として、引き続き新港と共に併用して供用を続けて、より使い勝手の良い港として、離島の住民の方や、観光客に使用していただけることが望まれています。

5 コスト削減の可能性や代替案立案の可能性

5-1 コスト削減

整備済みの施設については、ライフサイクルコストを踏まえた維持管理計画に基づき管理していくことで経費削減を図って行きたいと考えます。

残事業について未着手のものは、浮棧橋 2 基と、臨港道路になります。浮棧橋については、発注ロット等の工夫を行いコスト削減に努めて参ります。臨港道路についても、市営ターミナルとの工程調整等を適切に行い、可能な限りコストの削減を行いたいと思います。

5-2 代替案

鳥羽港佐田浜地区は、JR、近鉄鳥羽駅前に位置し、大型の公共駐車場が隣接しているという立地条件の良さから、他の地区で代替する事が困難であり、現計画のまま整備を進めることが妥当であると判断しています。

再 評 価 の 経 緯

当事業に関して、平成 15 年度に答申された再評価委員会の答申並びにそれに対する対応状況は以下のとおりです。

【答申】

- ① 事業計画等の住民への周知を図ること及び住民参画を図ること。
- ② 計画、事業実施においてコスト削減を図ること。

【対応】

平成 18 年より「とばみなとまちづくり計画検討会議」を開き今後の佐田浜地区のあり方について検討しています。また、坂手島、答志島、菅島、神島の離島住民に、ターミナルについての説明会を実施しております。コスト削減に関しましては、掘削土の西南海岸への養浜に有効利用したことや、適正な発注ロットの設定を行い諸経費の削減に努めたこと等、努力して参りました。

事 業 主 体 の 対 応 方 針

三重県公共事業再評価実施要綱第 3 条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第 5 条第 1 項に該当すると判断されるため当事業を継続したいと考えています。